

平成31年度 学校評価報告書 (計画段階 ・ 実施段階)

いずれかを○で囲む

学校名	福岡市立福翔高等学校		学校経営方針・学校教育方針	今年度の重点目標	評価(総合)	
学校長	ふりがな	たにもと のぼる	(1) 学力と体力の修練に努め、その充実・向上を図る。 (2) 礼節をわきまさせ、基本的な生活習慣を身につけさせる。 (3) 責任感と協調性をもち、勤労を尊ぶ精神を養わせる。 (4) 個性を生かして創造性を発揮させ、適性と能力に応じた進路指導の推進を図る。 (5) 自主的・自発的な精神で生活を営む態度を養うよう努めさせる。 (6) 人としての生き方(人権)を追究させることを通して、人権尊重の意識を高め、差別をなくす力を育てる。 (7) コミュニケーション能力を高め、多種多様な情報を適切に収集・処理・発信できる能力を育てる。	(1) 和の学校運営と「希望進路の実現と部活動の活性化」 校長を中心に調和のとれた運営を行うとともに、生徒の進路実現を最重点とし、進学では、福岡私立(西南学院大を含む)200人以上を目標に、就職では、内定率100%を目標に挑戦し、全教師で努力を継続する。また、部活動の活性化を推進する。(体制、実績、活動内容等) (2) 授業改善・授業改革の推進と若手教師の育成 授業改善工夫につながる校内研修を計画的・組織的に行い、また、市立高校の将来を担う若手教師を、ひとりの社会人、ひとりの教師として全教職員で支援し育てる。 (3) キャリア教育の充実 総合学科高校として「産業社会と人間」を中心に、ジュニア・アチーブメント・プログラム(ジョブシャドウ・SCP・ミース)に全教職員で取り組む。 (4) 組織的な学校運営と危機管理の徹底 「すべては生徒のために」を常に意識し、教職員の持っている力を結集して、各部・各教科等が連携し、組織的に生徒の指導や校務運営にあたることと、日常的に危機意識をもち、起こりうることを想定しながら教育活動を行う。 (5) 福翔改革サードステージ～第2章への推進 3の進路支援プログラム(矢)と3つのオプション(羽)への新たな取組み	学校自己評価	学校関係者評価
	氏名	谷本 昇				
校長本校在籍年数	4年					
学校関係者 評価委員会 委員長	ふりがな	かわぐち みよじ				
	氏名	川口 三代次				

昨年度の成果と課題	(1) 学習意欲を喚起する授業の指導工夫が必要である。教える内容のマイナーチェンジでなく、教え方のモデルチェンジをもっと求めていく必要がある。 (2) 「コミ学」の取組を通して更に関係性の質を高めていくことが、最後まで一体感をもち、一人一人のやり抜く力の育成につながる進路指導になると思われる。 (3) 部活動指導と教科指導の一体化が福翔全体の教育活動の相互作用を高めることにつながると思われる。
-----------	--

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的方策					
教育課程・学習指導	主体的・対話的で深い学びが得られるような授業改善を図り、生徒の学習意欲を高めるとともに、個々の生徒の進路実現を目指す。	授業改善のために授業評価アンケートの工夫改善を図るとともに、教科内の研修活動につながる工夫を図る。 研修会(A事業、教科研修)の充実を図り、授業改善に努めていく。 教科主任会を活性化し、教科間の情報交換と情報共有を図り、教科・各部からの提案等を検討する。					
	・教育課程の検証と改善を図る。 ・推薦入試の改善を図る。	新しいプログラムをより充実させるような取組みを各教科・各学年との連携を密に行う。 推薦入学者カルテを利用し、今年度も継続して面談を行う。					
生徒指導	規範意識の高い生徒を育てる。	明確な基準を持って風紀指導の徹底を図り、主体的にルールやマナーを守ることの必要性を学び、理解させる。 自転車通学者に対し、駐輪、交通マナーの徹底した指導を行い、主体的に行動できるようにさせる。					
	基本的な生活習慣の確立を図る。	時間の大切さを自ら考え、先を見通した行動ができるように、5分前行動ができる習慣を身につけさせる。 その場に応じた挨拶や状況に応じた適切な行動ができるよう適宜指導を行う。					
	「福翔高校いじめ防止基本方針」に基づき、総合的かつ効果的に推進する。	定例の(月1回)「いじめ防止対策委員会」とその事務局会において、未然防止、早期発見、早期解決等に当たる。 各部、各教科会、部活動顧問会等において、共通理解をもって指導し、認め合い、支えあう人間関係づくりを推進する。					
進路指導	生徒一人一人の進路保障を目指し、適切な指導・助言を行う。	本年度からの新しい形態での課外や補習を計画的に準備して、円滑に進める。 産業社会の人間や総合的学習の内容を深化し、生徒が主体的に進路目標を設定できるよう、指導・助言を行う。					
	学年に応じた情報の提供や支援を行う。	学年部と進路指導課の連携を強化し、進路指導課からの情報発信を積極的に行う。 ジュニアアチーブメントプログラムなどを有効に活用し、キャリア教育を一層充実させる。					
	基本的な図書館利用技術を身につけさせ、主体的な学習活動ができるようにさせる。図書館の有効利用を促進する。	図書館の利用を活性化し環境の整備を進め、読書指導の充実を図る。昨年度に引き続き、学級に出張貸出を行う。 蔵書数の増加(学校図書館の標準蔵書数)を目指す。選定に関しては、授業等での利用促進のため、専門図書を優先的に整備する。					
学校改革	アクティブラーナーの育成 主体的・協働的に深く学び続ける教員・生徒を目指して	希望進路実現のための柔軟なカリキュラム検討・実施及び新学習指導要領のカリキュラムの検討 「福翔サードステージ第2章(3本の矢)」を進める。					
	主体性の育成につながるキャリア教育の推進	部活動活性化に伴う積極的発信 「中学校、大学との交流」「部活動集会」 異文化・語学体験プログラムの検討・実施 「福翔サードステージ第2章(3つの羽)」の検討・実施 ジュニア・アチーブメント教育プログラムの効果的活用と体系的なコミュニケーション学習の実施 「SCPの活動充実」「SCP活動積極的発信」 「コミデイ」「コミキャン」					
特活指導	集団活動を通して、自主的・実践的な態度を育てる。	体育祭・文化祭などの行事を、生徒会が中心となり、自主的な企画・運営ができるように支援する。 規律ある自主的、主体性ある取り組みができるように指導・支援する。					
	体育部・文化部の活動の更なる活性化を目指す。	定期的に部活動顧問会議を開き、規律ある一貫した指導ができるよう意見交換、情報共有等に努める。 部活動加入率90%以上を目指し、部活動生が学校の真のリーダーとなるように研修を行い育成する。					

保健 環境 美化	基本的な生活習慣を確立し、心身ともに健康的な学校生活を送ることができる力を育成する。	毎朝健康チェックを実施する。出席状況に変化がある場合には、その原因を把握し、いじめ防止対策委員会等を通じて学校生活を円滑に送れるよう支援していく。 防災避難訓練やAED、エビベン研修などを行い、生徒が安心して健康的な学校生活を送ることができるように努める。						
	身の回りの整理整頓をはじめ、校舎内外の環境美化に対する意識を高め、心豊かに学校生活を送ることができるよう支援する。	毎日の清掃活動を確実に行う中で、生徒会や福祉委員を中心にリサイクル活動を推進する。 PTAや地域の方々と連携し、校内美化の一環としてトイレ一斉掃除や花いっぱい運動を実施する。						
1学 年	基本的な生活習慣を確立するとともに、自ら意欲的に学習に取り組ませる。	「産業社会と人間」の授業やホームルーム活動を通じて、自己の将来に向けて目標設定をさせ、意欲的に学習に取り組む態度を育成する。 規則正しい学校生活を送らせるとともに、計画的・継続的に家庭学習に取り組ませる。						
	学校行事に積極的に参加し、集団への帰属意識を高めさせる。	本校の伝統や校風を理解させ、高校生として相応しい態度を育成する。 各行事の意義を理解させ、積極的に参加する態度を促し、集団への帰属意識を高めていく指導を行う。また、安心して過ごすことのできる環境づくりに努める。						
2学 年	基本的な生活習慣の確立とともに、落ち着いた学校生活のもと、文武両道に努めさせる。	5分前行動、挨拶、言葉遣いなどの指導を徹底し、文武両道に努める環境を作る。 進路目標を明確にし、自ら学ぶ姿勢を身につけ、計画的に学習に取り組む態度を養う。						
	学校行事に積極的に参加し、集団への所属意識を高めさせる。	各行事において、一人ひとりに協力のあり方と重要性を理解させ、集団への所属意識を高めることができるようにする。 研修旅行の意義を理解させ、積極的に参加する態度を促し、自立した行動ができ、成長した姿や態度を実感させる。						
3学 年	進路実現のために適切な進路指導を行う。	三者面談をはじめ、個人面談を十分に実施し、模試データの分析や志望校決定に関して、学年全体で細やかな進路指導を行う。 高い進路目標を持たせ、その実現のために、最後まであきらめず、やりぬく態度を育成する。						
	最終学年としての自覚を促し、学校行事に積極的に参加する態勢を整えさせ、自律的に動く集団作りをさせる。	文化祭や体育祭をはじめ、行事に積極的に参加する態度を促し、達成感や成就感を感じさせる。 リーダーを中心に設定した高い目標を共有させ、目的を達成するに相応しい自発的自律的な行動は何かを各人に考えさせることで、集団の力を最大限発揮することができるようにする。						
人権 教育	本校が抱える人権に関する諸課題に対応する職員研修会を企画し、人権にやさしい学校を創造する取り組みを推進する。	特設人権教育の指導内容と方法を検証し、本校の抱える人権に関する諸課題に対応するよう改善を図っていく。 校内職員研修のさらなる充実に努め、全教職員の外部研修会への積極的な参加を呼びかける。						
	教育相談活動の充実をはかり、実効的な活動を推進する。	気になる生徒の早期把握と情報共有化を推進し、SC、SSWの協力・助言を受け、不登校・休学・中途退学の生徒の減少をはかる。 特別支援教育について全教職員で共通理解し、通級指導を円滑に行い、教育活動の中で効果的に実践していく。						

※ 学校自己評価は、5段階評価(S…目標を大幅に上回る達成度,A…目標を上回る達成度,B…目標どおりの達成度,C…目標を下回る達成度,D…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取り組み状況等について記入すること。
※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(S～D)で評価すること。

